

平成22年4月13日

各位

上場会社名 株式会社アドテック プラズマ テクノロジー
 代表者 代表取締役社長 藤井 修逸
 (コード番号 6668)
 問合せ先責任者 取締役総務・経理部長 中山 浩之
 (TEL 084-945-1359)

平成22年8月期第2四半期業績予想との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年10月13日に公表いたしました、平成22年8月期第2四半期連結累計期間の連結及び個別の業績予想数値と実績に差異が生じることとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。

また、平成22年8月期通期の連結及び個別の業績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年8月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年9月1日～平成22年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,767	△159	△178	△188	△21,913.68
今回発表予想(B)	1,901	△44	△83	△59	△6,960.29
増減額(B-A)	134	115	95	129	
増減率(%)	7.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年8月期第2四半期)	2,182	△88	△266	△168	△19,643.71

平成22年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年9月1日～平成22年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,790	△233	△294	△325	△37,882.34
今回発表予想(B)	4,075	△42	△133	△137	△15,959.93
増減額(B-A)	285	191	161	188	
増減率(%)	7.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年8月期)	3,363	△475	△641	△755	△88,016.28

平成22年8月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年9月1日～平成22年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,039	△167	△179	△181	△21,149.23
今回発表予想(B)	1,263	△23	△58	△38	△4,475.83
増減額(B-A)	224	144	121	143	
増減率(%)	21.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年8月期第2四半期)	1,551	△98	△279	△178	△20,768.82

平成22年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年9月1日～平成22年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,110	△283	△332	△336	△39,161.81
今回発表予想(B)	2,731	△43	△127	△112	△13,047.53
増減額(B-A)	621	240	205	224	
増減率(%)	29.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成21年8月期)	2,099	△463	△627	△743	△86,562.49

修正の理由

1. 平成22年8月期第2四半期の業績予想修正の理由

(1) 連結業績

当社グループの主たる事業領域である半導体・液晶関連事業(当社、Adtec Technology, Inc.及びAdtec Europe Limited(以下、「当社等」という。))においては、ウインドウズ7搭載のパソコン及び多機能型携帯電話等の需要が堅調に推移し、景気刺激策(液晶テレビ等に対するエコポイントの付与)などの影響に伴う消費者需要の増加により、半導体市場及び液晶パネル市場の各関連メーカーの設備投資が堅調に推移いたしました。

研究機関・大学関連事業(株式会社IDX(以下、「IDX」という。))においては、民主党政権による公共事業予算の削減及び経済不況の影響により、設備投資は低調に推移いたしました。

このような事業環境の中、当社等は、新製品の開発を進めるとともに、受注獲得のため営業活動を展開し、役員報酬の減額及びワークシェアリングの活用による人件費の抑制等により固定費を削減、企業体質の改善の取り組みを進めてまいりました。

この結果、連結グループの第2四半期累計期間の売上高は1,901百万円と前回予想より134百万円(7.6%)増加しました。利益面においては、売上高の増加及び固定費削減の実施により、営業損失44百万円(前回予想は営業損失159百万円)になりました。

また、主としてユーロの為替相場が円高(ユーロ安)へ推移したことによる為替差損の発生により、経常損失83百万円(前回予想は経常損失178百万円)となりました。

なお、平成22年1月13日に公表しました「特別利益及び特別損失に関するお知らせ」のとおり、当社の材料仕入先において品質不良が発生したことに伴う補償金収入による受取補償金37百万円、当社の製品等に組み込まれている当該部品の交換作業等に伴う費用による臨時損失19百万円が発生したことにより、四半期純損失59百万円(前回予想は四半期純損失188百万円)となりました。

(2) 単体業績

当社の業績予想の修正理由については、上記「(1) 連結業績」に記載のとおり、半導体市場及び液晶パネル市場の設備投資が堅調に推移したことにより、売上高は1,263百万円と前回予想より224百万円(21.6%)増加しました。

利益面については、売上高の増加及び人件費の抑制等による固定費の削減を実施したことにより、営業損失23百万円(前回予想は営業損失167百万円)になりました。

また、主としてユーロの為替相場が円高(ユーロ安)へ推移したことによる為替差損の発生により、経常損失58百万円(前回予想は経常損失179百万円)となりました。

なお、平成22年1月13日に公表しました「特別利益及び特別損失に関するお知らせ」のとおり、当社の材料仕入先において品質不良が発生したことに伴う補償金収入による受取補償金37百万円、当社の製品等に組み込まれている当該部品の交換作業等に伴う費用による臨時損失19百万円が発生したことにより、四半期純損失38百万円(前回予想は四半期純損失181百万円)となりました。

2. 平成22年8月期通期の業績予想修正の理由

(1) 連結業績

当社グループの主たる事業領域である半導体・液晶関連事業(当社等)は、上記「1. 平成22年8月期第2四半期の業績予想修正の理由 (1) 連結業績」に記載のとおり、半導体市場及び液晶パネル市場の設備投資は堅調に推移すると見込んでおります。

研究機関・大学関連事業(IDX)におきましては、公共事業予算の削減等の影響により、厳しい事業環境で推移すると見込んでおります。

このような事業環境の中、当社等は、早期に新製品の市場投入を進めるとともに、人件費の抑制等による固定費の削減を継続し、企業体質の改善の取り組みを進めてまいります。

この結果、連結グループの売上高は4,075百万円と前回予想より285百万円(7.5%)増加する見込みであります。

利益面においては、営業損失42百万円(前回予想は営業損失233百万円)、経常損失133百万円(前回予想は経常損失294百万円)、当期純損失137百万円(前回予想は当期純損失325百万円)となる見込みであります。

(2) 単体業績

当社の業績予想の修正理由については、上記「(1) 連結業績」に記載のとおり、半導体市場及び液晶パネル市場の設備投資が堅調に推移するものと見込んでおり、当社の売上高は2,731百万円と前回予想より621百万円(29.4%)増加する見込みであります。

利益面においては、人件費の抑制等による固定費の削減を継続し、企業体質の改善の取り組みを進めることにより、営業損失43百万円(前回予想は営業損失283百万円)、経常損失127百万円(前回予想は経常損失332百万円)、当期純損失112百万円(前回予想は当期純損失336百万円)となる見込みであります。

以 上